# 英文法 L01 第 46 講 if・whether・疑問詞の名詞節

**学習目標**

if・whether を使う名詞節と疑問詞の名詞節について、「〜かどうか」や疑問詞が表す内容を理解し、節内部の基本的な語順を判断できる。whether 節を主語や前置詞の直後に置く形、whether or not と if … or not の基本的な使い分けを判断できる。

**解説**

## 1. if・whether が表す「〜かどうか」

**名詞節**とは、主語と動詞を含み、文の中で名詞のように働く語のまとまりである。if・whether は、Yes か No で答えられる疑問の内容を名詞節として表し、「〜かどうか」という意味を作る。

例えば、次の 2 文はどちらも同じ意味を表す。

I don't know if Ken is at home.（私はケンが家にいるかどうか知らない。）

I don't know whether Ken is at home.（私はケンが家にいるかどうか知らない。）

この例では、if と whether のどちらも使える。一方だけが正しく、もう一方が誤りになるわけではない。

## 2. 名詞節の中は平叙語順

名詞節の内部では、疑問文の語順ではなく、基本的に「主語＋動詞」の平叙語順を使う。平叙語順とは、通常の文で使う基本的な語順である。

上の例では、名詞節の中が Ken is at home となっている。疑問文の Is Ken at home?（ケンは家にいますか。）とは異なり、主語 Ken の後ろに動詞 is が続く。if・whether が疑問の内容を表していても、節の内部まで疑問文の語順に変えるわけではない。

©ミライコーチング

**解説**

## 3. 疑問詞が表す内容

疑問詞は、人・物・場所・時・理由・方法など、知りたい内容を具体的に示す語である。疑問詞を使った名詞節は、疑問文で尋ねる内容をひとまとまりにして、文の中で名詞のように働かせる。

**where** は場所、**when** は時、**why** は理由、**how** は方法や様子、**what** は物事、**who** は人についての内容を表す。例えば、I know where he lives.（私は彼がどこに住んでいるか知っている。）では、where he lives 全体が「彼がどこに住んでいるか」という内容を表し、動詞 know の目的語になっている。

疑問詞の名詞節では、節の内部を基本的に「主語＋動詞」の平叙語順にする。通常の疑問文と比べると、その違いが分かる。

Where does he live?（彼はどこに住んでいるのか。）

I know where he lives.

主文の主語 [main-s]: “I”

主文の動詞 [main-v]: “know”

名詞節全体（目的語） [noun-clause]: “where he lives”

節内の主語 [clause-s]: “he”

節内の動詞 [clause-v]: “lives”

（私は彼がどこに住んでいるか知っている。）

通常の疑問文では does が主語 he の前に置かれるが、名詞節では where の後ろに主語 he、動詞 lives の順で続く。名詞節では、疑問文の語順をそのまま使わない。

疑問詞自体が節の主語になる場合も平叙語順であり、疑問詞そのものが主語なので、その後ろに動詞を置く。Who called you?（誰があなたに電話したのか。）では、who 自身が主語なので、その後ろに動詞 called が続く。I know who called you.（私は誰があなたに電話したか知っている。）でも同じ語順になる。この場合、who の後ろに別の主語を置く必要はない。語順を判断するときは、疑問詞が主語なのか、それ以外の要素なのかを確認する。

©ミライコーチング

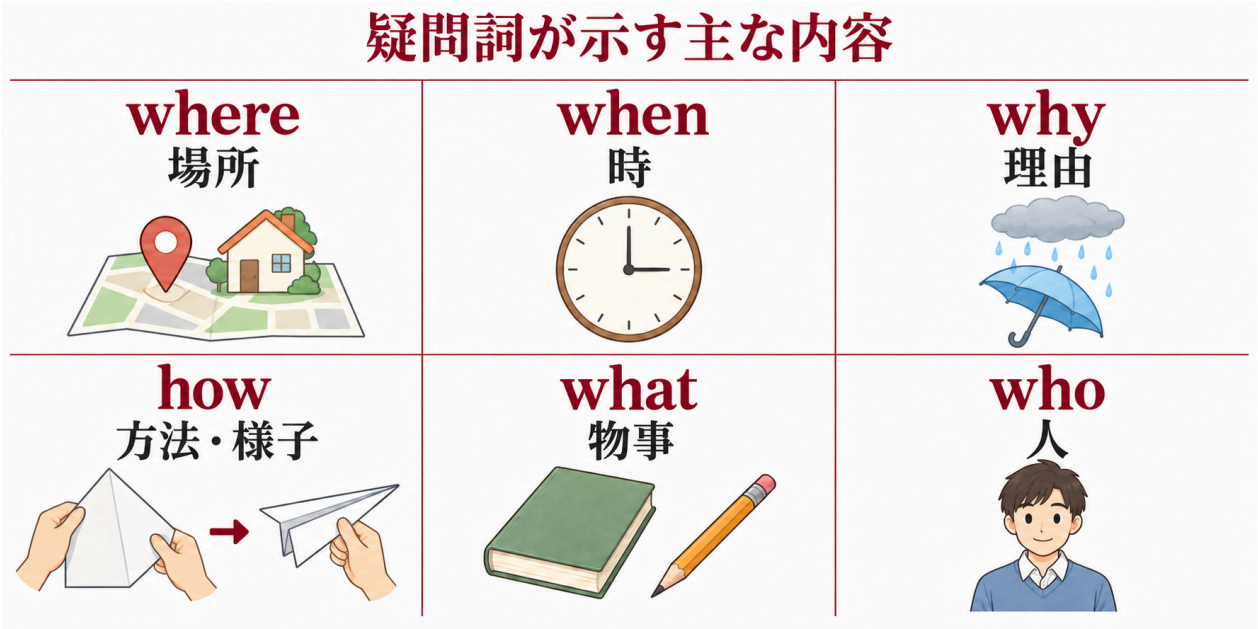


**図 1**　where は場所、when は時、why は理由、how は方法や様子、what は物事、who は人を表す 6 つの疑問詞を、意味ごとに整理した図。

**解説**

## 4. whether を使う形

whether は「〜かどうか」という内容を表し、if と同じように使える場合がある。ただし、whether は if に置き換えられない位置でも使えるため、節の置かれた位置を確認することが大切だ。

まず、whether 節は文の主語になれる。Whether he will come is uncertain.（彼が来るかどうかは、まだはっきりしない。）では、Whether he will come 全体が主語で、is uncertain がその内容について述べている。文頭で「〜かどうか」という内容を主語にするときは、whether を使う。

次に、前置詞の直後にも whether 節を置ける。It depends on whether we have time.（それは、私たちに時間があるかどうかによる。）では、whether we have time が前置詞 on の後ろに置かれている。この位置では whether を使うのが基本であり、if へ機械的に置き換えない。

whether or not は「〜かどうか」という意味を明確に表す形である。I don't know whether or not he will come.（彼が来るかどうか分からない。）のように、whether の直後に or not を置ける。また、I don't know whether he will come or not.（彼が来るかどうか分からない。）のように、節の末尾に or not を置く形も使える。

if を使う場合も、I don't know if he will come or not.（彼が来るかどうか分からない。）のように、or not を節の末尾に置くことができる。ただし、I don't know if or not he will come. のように if の直後へ or not を置く形は、標準的な表現としては避ける。if と whether の使い分けでは、単語だけで正誤を決めず、節の位置と語順を確認する。

**1**

次のうち、if を用いた名詞節の語順が正しい英文を選べ。

A. I don't know if Tom has the key.

B. I don't know if has Tom the key.

C. I don't know if does Tom have the key.

D. I don't know if Tom the key has.

## 解答・解説

**正解：A**

**判断のポイント**

if は「〜かどうか」という内容を表す名詞節を導く。この文では、if Tom has the key 全体が動詞 know の目的語になっている。名詞節の内部は疑問文の語順ではなく、基本的に「主語＋動詞」の平叙語順になる。主語 Tom の後ろに動詞 has が続く A が正しい。

I don't know if Tom has the key.（私はトムがその鍵を持っているかどうか知らない。）

**各選択肢の解説**

A. 正解。if の後ろが主語 Tom、動詞 has の順になっており、名詞節の語順が正しい。

B. 誤り。has Tom と動詞が主語より前に置かれている。名詞節では、このような疑問文の語順にしない。

C. 誤り。does Tom have は直接疑問文の語順である。例えば、Does Tom have the key?（トムはその鍵を持っていますか。）のように、直接質問するときには使えるが、名詞節の内部ではこの語順にしない。

D. 誤り。Tom の後ろに目的語 the key が置かれ、動詞 has が最後に来ている。ここでは「主語＋動詞＋目的語」の順にする必要がある。

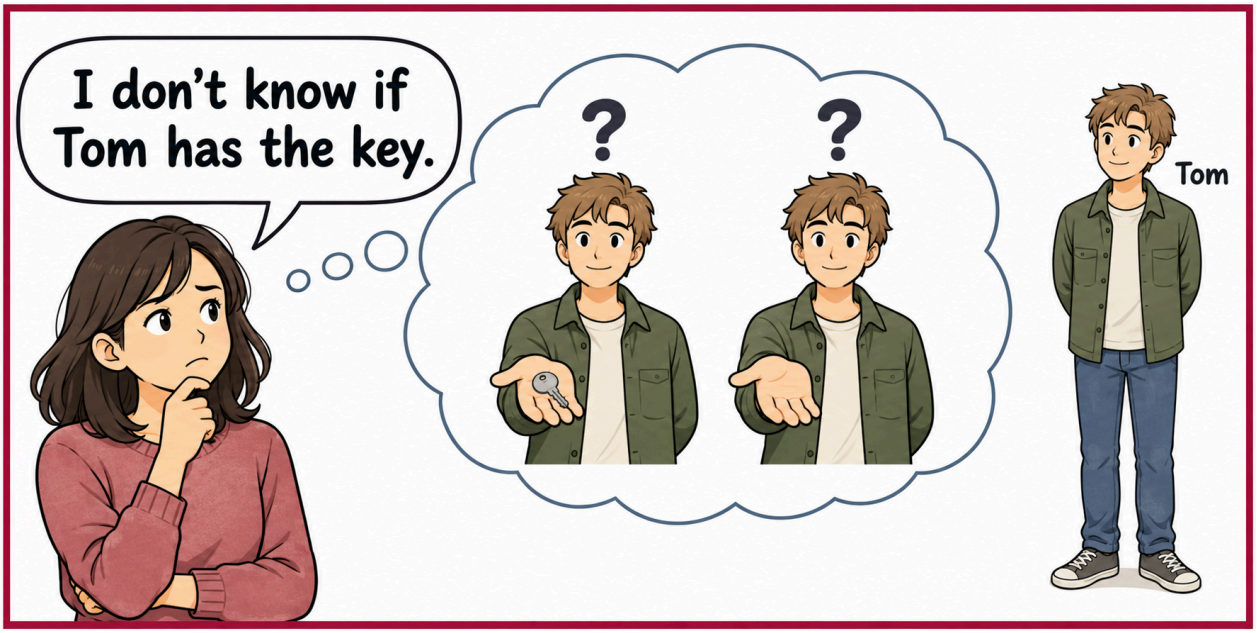


**図 2**　話し手には、トムが鍵を持っているかどうか分からない。

**2**

次の空所に入る最も適切な語句を選べ。

I know (　　).

A. where does Emma live

B. where Emma lives

C. where Emma live

D. where does live Emma

## 解答・解説

**正解：B**

**判断のポイント**

疑問詞の名詞節では、疑問詞の後ろを基本的に「主語＋動詞」の平叙語順にする。ここでは where（どこに）に続く主語が Emma、動詞が lives となる B が正しい。

I know where Emma lives.（私はエマがどこに住んでいるか知っている。）

通常の疑問文では、Where does Emma live?（エマはどこに住んでいるのか。）のように、does を主語 Emma の前に置く。しかし、この疑問文を名詞節として動詞 know の目的語にすると、where Emma lives という語順になる。ここでは、疑問文を作る does を使わず、動詞 live を主語 Emma に合う lives にする。

**各選択肢の解説**

A. 誤り。where does Emma live は直接疑問文で使う語順であり、名詞節にはそのまま使えない。ここでは where Emma lives とする。

B. 正解。where の後ろが主語 Emma、動詞 lives の順になっており、名詞節の語順と主語に合う動詞の形の両方が正しい。

C. 誤り。主語 Emma は三人称単数なので、現在形の動詞は lives とする必要がある。live のままでは主語と動詞の形が一致しない。

D. 誤り。where does live Emma では、主語 Emma が動詞 live の後ろに置かれており、主語＋動詞の順になっていない。ここでは where Emma lives とする。

# 演習問題

**1**

次の空所に入る最も適切な語句を選べ。

I wonder if (　　).

A. does the library open

B. is the library open

C. the library is open

D. the library open is

**2**

「彼が参加するかどうか」という内容を文頭の名詞節で表す、標準的な英文を完成させよ。

(　　) he will join us is still unclear.

A. Whether

B. If

C. Does

D. Which

**3**

標準的な英文として、次の空所に入る最も適切な語句を選べ。

The decision depends on (　　).

A. that we can leave now

B. can we leave now

C. if can we leave now

D. whether we can leave now

**4**

標準的な英文として誤っているものを 1 つ選べ。

A. I don't know whether he will come or not.

B. I don't know if or not he will come.

C. I don't know if he will come or not.

D. I don't know whether or not he will come.

©ミライコーチング

**5**

次の空所に入る最も適切な語句を選べ。

Could you tell me (　　)?

A. where is the nearest bank

B. where does the nearest bank

C. where the nearest bank is

D. where the nearest bank does

**6**

ある人から電話がかかってきたが、誰なのか分からない。次の空所に入る最も適切な語を選べ。

I don't know (　　) called me.

A. whom

B. who

C. whose

D. when

**7**

ミアが欠席した理由を知りたい。次の空所に入る最も適切な語を選べ。

I asked (　　) Mia was absent.

A. when

B. where

C. how

D. why

**8**

列車の正確な到着時刻を知る必要がある。次の空所に入る最も適切な語を選べ。

We checked (　　) the train arrives.

A. where

B. why

C. when

D. how

©ミライコーチング

# 演習問題の解答・解説

## 1

**正解：C**

**判断の決め手**

if は「〜かどうか」という内容を表す名詞節を導く。名詞節の内部は、疑問文の語順ではなく、基本的に「主語＋動詞」の平叙語順にする。主語 the library の後ろに動詞 is が続く C が正しい。

I wonder if the library is open.（私は図書館が開いているかどうか気になっている。）

**各選択肢の解説**

A. 誤り。does the library open は、does を主語 the library の前に置く疑問文の語順である。if に続く名詞節では、この語順にしない。

B. 誤り。is the library open は、be 動詞 is が主語 the library の前に置かれた疑問文の語順である。名詞節では、主語の後ろに is を置く。

C. 正解。主語 the library の後ろに動詞 is が続いており、名詞節の基本語順になっている。if the library is open 全体で「図書館が開いているかどうか」という内容を表す。

D. 誤り。the library open is では、主語 the library の後ろに形容詞 open が置かれ、動詞 is が最後に来ている。ここでは主語の後ろに動詞 is を置き、その後ろに open を続ける必要がある。

## 2

**正解：A**

**判断の決め手**

文頭で「〜かどうか」という内容を主語として表す場合は、whether を使う。whether he will join us 全体が主語となり、is still unclear がその内容について述べている。if も名詞節を導けるが、このような文頭の主語の位置では、標準的な英文では whether を使う。

Whether he will join us is still unclear.（彼が私たちに加わるかどうかは、まだはっきりしていない。）

**各選択肢の解説**

A. 正解。whether he will join us が「彼が私たちに加わるかどうか」という内容を表し、文全体の主語になっている。後ろの is still unclear が、その内容はまだはっきりしていないと述べている。

B. 誤り。この位置では if ではなく whether を使うのが標準的である。if は動詞の目的語となる名詞節などでは whether と同じように使えるが、文頭の主語となる名詞節には通常使わない。

C. 誤り。Does he will join us のように、助動詞 does と will をこの形で重ねることはできない。また、文頭の主語となる名詞節には、疑問文の語順を使わない。

D. 誤り。which は、選択肢の中からどれかを尋ねるときなどに使う疑問詞である。この文が表したいのは、彼が参加するかどうかという Yes・No の内容であり、which ではその意味にならない。

©ミライコーチング

## 3

**正解：D**

**判断の決め手**

前置詞 on の直後に「〜かどうか」という内容の名詞節を置く場合は、whether を使う。whether we can leave now は、主語 we、動詞 can leave の順になっている。前置詞の後ろに置く名詞節では、この位置で if に置き換えず、whether を使うのが基本である。

The decision depends on whether we can leave now.（その決定は、私たちが今出発できるかどうかにかかっている。）

**各選択肢の解説**

A. 誤り。that we can leave now は、接続詞 that が導く節である。前置詞 on の直後にこの形をそのまま置くことはできない。「私たちが今出発できるという事実」にかかっていると表すなら、The decision depends on the fact that we can leave now.（その決定は、私たちが今出発できるという事実にかかっている。）のようにする。

B. 誤り。can we leave now は、助動詞 can が主語 we より前に置かれた疑問文の語順である。さらに、前置詞 on の後ろには「〜かどうか」を表す名詞節を導く whether が必要であり、whether we can leave now とする。

C. 誤り。if can we leave now は、if の後ろが疑問文の語順になっている。さらに、前置詞 on の直後では if ではなく whether を使うのが基本である。

D. 正解。whether we can leave now が前置詞 on の目的語となり、「私たちが今出発できるかどうか」という内容を表している。節内部も主語 we、助動詞 can、動詞 leave の順になっている。

## 4

**正解：B（標準的な英文として誤っている肢）**

**判断の決め手**

whether は、whether he will come or not のように節の末尾に or not を置く形にも、whether or not he will come のように whether の直後に or not を置く形にも使える。一方、if を使う場合も、if he will come or not のように節の末尾に or not を置くことができる。ただし、if or not he will come のように if の直後に or not を置く形は、標準的な英文としては避ける。

**各選択肢の解説**

A. 正しい。whether he will come or not は「彼が来るかどうか」という内容を表す。whether 節の末尾に or not を置いた形である。

I don't know whether he will come or not.（私は彼が来るかどうか分からない。）

B. 誤り。if or not he will come では、if の直後に or not が置かれている。この位置では whether を使う。例えば、I don't know whether or not he will come.（私は彼が来るかどうか分からない。）とすれば正しい。また、if を使うなら I don't know if he will come or not.（私は彼が来るかどうか分からない。）のように、or not を節の末尾に置く。

C. 正しい。if he will come or not は、if で名詞節を導き、or not を節の末尾に置いた形である。この位置なら if を使うことができる。

I don't know if he will come or not.（私は彼が来るかどうか分からない。）

D. 正しい。whether or not he will come は、whether の直後に or not を置いた形である。節内部は主語 he、助動詞 will、動詞 come の順になっている。

I don't know whether or not he will come.（私は彼が来るかどうか分からない。）

## 5

**正解：C**

**判断の決め手**

文全体は Could you tell me …?という丁寧な依頼の疑問文だが、その後ろに続く名詞節は平叙語順になる。where の後ろに主語 the nearest bank、動詞 is の順で続く C が正しい。文全体が疑問文であっても、名詞節の内部まで疑問文の語順にするわけではない。

Could you tell me where the nearest bank is?（最寄りの銀行がどこにあるか教えてもらえますか。）

**各選択肢の解説**

A. 誤り。where is the nearest bank は、be 動詞 is を主語 the nearest bank より前に置いた直接疑問文の語順である。名詞節では主語を動詞の前に置く。補助例：Where is the nearest bank?（最寄りの銀行はどこにありますか。）

B. 誤り。where does the nearest bank では、助動詞 does の後ろに必要な動詞がなく、文が成立していない。さらに、名詞節では does を主語より前に置く語順にもできない。

C. 正解。where the nearest bank is は、疑問詞 where の後ろが主語 the nearest bank、動詞 is の順になっている。名詞節の基本語順に合っている。

D. 誤り。where the nearest bank does では、does の後ろに動詞がなく、銀行の場所を尋ねる名詞節として文が完成していない。ここでは場所を表す where に続けて、主語 the nearest bank、動詞 is とする。

## 6

**正解：B**

**判断の決め手**

who は「誰が」という意味で、人を尋ねる疑問詞である。この文では、誰が電話をかけたのかを尋ねており、who 自身が動詞 called の主語になっている。そのため、who の後ろに別の主語を置かず、who called me という語順にする。

I don't know who called me.

名詞節全体（目的語） [noun-clause]: “who called me”

節内の主語 [clause-s]: “who”

節内の動詞 [clause-v]: “called”

節内の目的語 [clause-o]: “me”

（私は誰が私に電話をかけてきたのか分からない。）

**各選択肢の解説**

A. 誤り。whom は「誰を・誰に」という目的語の役割を表す形である。この文では、知りたいのは電話をかけた人物、つまり called の主語なので、who を使う。補助例：Whom did you call?（あなたは誰に電話しましたか。）

B. 正解。who が called の主語になり、called me で「私に電話をかけた」という内容を表している。疑問詞自体が主語なので、who の後ろに別の主語を置く必要はない。

C. 誤り。whose は所有関係を尋ねる語である。この文で知りたいのは電話をかけた人物であり、誰の物かという所有関係ではないため、whose は適切ではない。補助例：Whose phone rang?（誰の電話が鳴ったのか。）

D. 誤り。when は時を尋ねる疑問詞であり、この文で知りたい電話をかけた人物を表さない。また、when called me では called の主語も欠けている。電話をかけた人物を尋ねるには、主語となる who を使って who called me とする。




**図 3**　who が電話をかけた人物、me が電話を受けた人物を表し、発信者の正体はまだ分かっていない。

## 7

**正解：D**

**判断の決め手**

設問では、ミアが欠席した理由を知りたいという状況が示されている。理由を尋ねる疑問詞は why である。疑問詞の名詞節では、why の後ろに主語 Mia、動詞 was の順で続ける。

I asked why Mia was absent.（私はミアが欠席した理由を尋ねた。）

文全体の動詞 asked は過去形であり、名詞節内の was も、ミアが欠席していた過去の状況を表している。

**各選択肢の解説**

A. 誤り。when は時を尋ねる疑問詞である。when Mia was absent は「ミアがいつ欠席していたか」という内容になる。文法的には成立するが、欠席した理由を尋ねるという設問の条件には合わない。

B. 誤り。where は場所を尋ねる疑問詞である。where Mia was absent は、欠席していた場所について尋ねる内容になる。理由を知りたいという設問の条件には合わない。

C. 誤り。how は方法や様子を尋ねる疑問詞である。この文では欠席の理由を尋ねているため、why が適切である。how を使うと、理由ではなく方法や状況に焦点が移る。

D. 正解。why は理由を表し、why Mia was absent 全体で「ミアが欠席した理由」という内容になる。疑問詞の後ろも主語 Mia、動詞 was の順になっている。

## 8

**正解：C**

**判断の決め手**

設問では、列車の正確な到着時刻を知る必要があると示されている。時を尋ねる疑問詞は when である。when の後ろに主語 the train、動詞 arrives の順で続くため、C が正しい。

We checked when the train arrives.（私たちは列車が何時に到着するかを確認した。）

文全体の checked は、私たちが確認した行為を過去のこととして表している。一方、名詞節内の arrives は、列車の到着時刻について述べる現在形である。ここでは、時刻表などで定まる到着時刻を確認するという文脈に合っている。

**各選択肢の解説**

A. 誤り。where は場所を尋ねる疑問詞である。where the train arrives は、列車がどこに到着するかという内容になる。文法的には成立するが、設問で必要とされているのは到着する場所ではなく時刻である。

B. 誤り。why は理由を尋ねる疑問詞である。why the train arrives は、列車が到着する理由について尋ねる内容になる。列車の正確な到着時刻を知りたいという設問の条件には合わない。

C. 正解。when は時を尋ねる疑問詞であり、when the train arrives 全体で「列車が何時に到着するか」という内容を表す。主語 the train の後ろに動詞 arrives が続き、名詞節の基本語順にも合っている。

D. 誤り。how は方法や様子を尋ねる疑問詞である。how the train arrives は、列車がどのように到着するかという内容になる。文法的に疑問詞節を作ることはできるが、正確な到着時刻を確認するという設問の条件には合わない。

©ミライコーチング